

当キャンペーンにより支援する事業のご紹介

海外支援事業 ～飢餓に直面する人々の自立支援～ -2057 万円-

Pick Up! バングラデシュでの事業例

■情報センター・図書館運営 -「情報」が、貧困に直面する人々の暮らしを変える-



センター所蔵の参考書を真剣に読む子ども



センターでは、求人情報の検索ができるほか、就職に役立つパソコンスキルも学べる

HFW が活動するボダ郡、カリガンジ郡は、バングラデシュでも最も貧しい地域で、1日の収入が100タカ(約150円)以下の世帯が約70%にのぼります。

電気が通っていない家庭がほとんどで、新聞やテレビなどを買うこともできないため、ニュースを知ることはもちろん、貧しい生活から抜け出すために求人情報を調べ、応募することもできません。そこで、HFWは2006年から情報センターを2郡で1つずつ運営し、新聞や専門書、インターネットにつながるパソコンなどを備えて、必要な情報を得られるよう支援してきました。2011年度は、この情報センターに来ることが難しい離れた村に住む住民たちを支援するため、2郡でさらに一つずつ、情報センターを設置します。

回収キャンペーンの資金は、センター設置費用として活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up! ベナンでの事業例

■青少年・成人対象の識字教育／子どもの栄養改善 -教育が人生の可能性を広げる-



小学校に通えなかった大人も多いベナン。小さな黒板を使って、字を書く練習



栄養士の指導のもと住民グループが調理した栄養改善食を、子どもたちに提供

ベナンでは6割の人が字の読み書きができません。HFWは活動地ベト村で、2004年度から識字教室で現地語フォン語の教育を行っています。開始当初は60名しかいなかった生徒も、現在は205名に増え、卒業生の中から育った教員たちも教壇に立って教えています。このように、住民の識字教育への意識は年々高まり、ベト村と周辺の村6カ所で授業を実施するまでに拡大しています。

また、2007年に行った栄養調査でベト村の7人に1人の子どもが栄養不良だとわかりました。そこで2009年度の終わりから子どもの栄養改善事業を開始。2010年度末までに、今期の対象となっていた栄養不良の子どもたち65名の健康状態が大幅に改善しました。

回収キャンペーンのご支援は、識字教室の運営費や栄養改善食の食材購入費、薬代などに活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up ! ブルキナファソでの事業例

■ 井戸修繕／学校給食 一命と健康を守る水を、住民の手に一



井戸を長く使えるよう、住民が修理方法を学び、管理する

HFW の活動地域では、住民の人口に対して安全な水を供給する井戸の数が足りていません。調査を行ったところ、水源には問題がないのに、水をくみ上げるポンプや水の通るパイプが壊れているために使われていないものがほとんどでした。そこでHFWは、これまで計4基の井戸を設置・修繕してきました。しかし、井戸の数はまだ十分ではなく、壊れたままの井戸が多くあります。引き続き、井戸の修繕を行うほか、井戸を管理する住民グループへの研修を行います。

また、2006 年度からピシ村小学校で、2009 年度からワムテンガ小学校で学校給食を提供しています。引き続き、2校 316 名分の給食提供を行います。



給食を食べる子どもたち。ご飯のあとは授業の予習

回収キャンペーンの資金は、井戸の修繕や管理研修の費用、学校給食費用などとして活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up ! ウガンダでの事業例

■ 育苗場運営・植林 一樹を植えて、将来の環境保護と栄養改善を一



苗木の植え方の指導を受ける住民たち

ウガンダでは森林伐採が急激に進み、このままではあと 40 年で全土が砂漠化するといわれています(ウガンダ環境白書 2008)。また、貧しい家庭では食事は 1 日 1 回のみで、家族で栄養不良になりがちです。

そこで HFW は、環境保護と人々の栄養改善のため、果樹栽培を指導するとともに、育苗場を設けて住民が自分たちで苗木をつくれるよう促しています。

昨年に引き続き今年もマンゴー、オレンジなどの果樹、殺菌・殺虫効果があるニーム、薬用にも電柱・建設資材にも使えるユーカリの苗木を育て、植林する予定です。また住民の希望者の中から選ばれた技術指導ボランティアに対し、環境教育および有機肥料の使用などに関する研修を実施します。



育苗場で植林をまつ、オレンジの苗木

回収キャンペーンの資金は、こうした苗木づくりや研修費用に活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

■啓発事業 -“飢餓をなくす人”を増やす-



地図の上で、12 の国や地域にわかれ、世界の現状を体感するエンディング・ハンガー・ゲームを実施



連続セミナー「飢餓を考えるヒント」を開催し、有識者を講師に招いて、食料問題について議論

世界から飢餓をなくすのは、一人ひとりの行動です。HFW は、日本の私たちの暮らしや食生活と世界の飢餓とのつながりを伝え、飢餓の終わりのために行動することを訴えるための活動を行っています。

例えば、生まれた国が違うだけで大きな貧富の差があるという世界の現実を知り、人々が協力しあえば現状を変えられるということを体験する「エンディング・ハンガー・ゲーム」を、国際協力イベント、企業の社会貢献イベント、学校での授業で実施しています。

また HFW10 周年の 2010 年度には、飢餓や食料問題の解決のために活動している国際機関、政府、企業、市民団体の各分野からパネリストを招き、「飢餓のない世界へー日本に暮らす私たちの責任と役割」をテーマにシンポジウムを開催。私たち一人ひとりにできることは何かを議論しました。

回収キャンペーンの資金は、こうした教育活動やイベント開催の費用として活用させていただきます。その他、啓発事業を行うために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

■青少年育成事業 -若者が飢餓をなくす-

世界の人口の多くを占めるのは 15～25 歳の青少年です。未来の担い手の若者が、主体的に飢餓の終わりのために行動できるよう、HFW は青少年組織ユース・エンディング・ハンガー (YEH) をサポートしています。

YEH は世界5カ国に拠点を持って活動。海外では若者を対象とした開発事業や啓発活動を行っています。日本国内では、高校生から大学生を中心としたメンバーが 10 地域で、海外での活動資金を集めるためのチャリティイベントや募金活動、飢餓の終わりを訴える啓発活動に取り組んでいます。また各国で年に1～2回、普段は別々の地域で活動するメンバーが各国内で一堂に会して、全国会議 (National Youth Conference: NYC) を行っています。

回収キャンペーンの資金は、こうした YEH による開発事業や啓発活動の費用に活用させていただきます。その他、青少年の活動をサポートするために必要な調査・評価活動、各種能力強化研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。



若者による、若者の収入創出のため養豚プロジェクト (ウガンダ)



国内のメンバーが集い、今後の活動について議論する全国会議を開催 (バングラデシュ)



街頭募金で海外メンバーの活動費用を集めると同時に、飢餓と貧困をなくすことを訴える (日本)

* 前述の4カ国での海外支援事業に 23% (約 2057 万円)、国内事業に 44% (約 3937 万円)、封筒制作費や料金受取人払いなどの回収キャンペーン経費に 33% (約 2952 万) を使わせていただきます。

今回は、①東日本大震災の影響で封筒返信率が下がったこと、②他団体との寄付折半の取り組み案件が増えたこと (この一部は震災支援への寄付)、こうした案件の HFW の寄付は半減した一方で、受取人払いや封筒制作費の経費の割合が増えたこと、③被災地の当団体の会員の退会、および会費停止や他の一般寄付の収入減が著しいこと、の理由により、海外支援事業以外の事業、および経費に多く充てています。